

あさり ぼしょ あさり みょうじん
浅利墓所と浅利明神



かなやまはら げんろく そしつね
金山原の丘の上にある。元禄13(1700)年3月曾雌常
えもんともよし まきのびぜんのかみ
右衛門知義という人が主人牧野備前守の命によりこの
地を検分した折、自分にゆかりのある浅利信種がここ
で戦死したことを知って「浅利墓所」と刻んだ墓標を
建てた。その後、寛政元(1789)年に村人が墓の側か
ら小さな瓶を見つけ、信種の遺骨だといって丘の下に
埋め、別の碑を建て覆屋を設けた。これを浅利明神と
か浅利さまとか呼び、戦前までは詣る者も多く、立願
成就のときは木の太刀を納める慣わしだった。

たけだ しんげんはたてまつせき しひ
武田信玄旗立松蹟址碑



旗立ての言い伝えのある老松が枯れてしまったこと
を惜んで、高峰村青年団が昭和3年11月に建てた。

撰文は、日本紋章学で名高い宮ヶ瀬出身の沼田頼輔
である。

しだざわ
志田沢

何千人とも知れぬ死傷者の血潮が流れて沢をなした
という伝承から「チダサワ」という別称を残している。

おん がわ
隠川

北条方の武将内藤秀行らが逃げ隠れ、落ち着いたと
伝わるところで、隠家とよばれていたという説もある。
またこの上流、原下の対岸あたりには北条方の敗残兵
たちが逃げ場を失い中津川原に飛び降りたという話が
残っている。

むこうやま
向山の半原神社

半原神社は、むかし向山の小平というところにあっ
た。三増合戦のとき信玄がこの社をみつけ戦勝を祈願
し、帰陣後、信州諏訪神社の分霊を送ってきて祀った
と伝えられている。ちなみに半原神社は諏訪大明神と
呼ばれていた。

信玄道

しもかわいり
厚木市下川入の
ろっほんまつ
六本松あたりから
たかみね
中津、高峰地区を
経て三増峠を越え、
ながたけ
旧津久井町長竹か
ら反畑に出る古道
を信玄道と呼ぶこ
とは、てんぼう
天保期に書
かれた新編相模国
風土記稿にも載っ
ている。曲折が少
なく、いかにも軍勢
がおし通ったよう
な感じがある。所
によっては「信玄
にげ道」と呼んで
いる。



くまさきんべえたいらのむねきよ
熊坂金兵衛平宗清

地域に残る伝説。熊坂金兵衛は三増合戦のころ小田
原領下川入惣代役であったが、北条方から武田方に加
担したという疑いをかけられた。金兵衛は、その疑い
が村の人々にまでかけられることを恐れて自分からそ
の罪に服し、旧津久井町根小屋の明日原で斬罪に処せ
られた。その後、その疑いが晴れ許されたので、遺骸
を当地に引き取って葬り、五輪の塔を建てて墓印とし
た。

村人はこの金兵衛の義侠に感じ慶安2(1649)年正月
神明社を建てて祀った。

中津地区にある龍福寺は、この人の菩提を弔うため
子の宗仲が建てたとの説もある。

ときのかえざか
関の声坂

かにさわ
坂本の蟹沢からバス停坂本入口の間にある坂。合戦
のとき武田軍が「ときのかえ」をあげたといのでこ
の名がついた。「吹き上げ坂」、「おおいしざか
大石坂」、「とうの木坂」とも
いう。

出土品



昭和33年に金山原で発見の槍の穂先と折れた刀